

社会に貢献する「企業市民」を目指します。

「社会貢献」も私たちの重要なテーマとして認識しています。さまざまな社会貢献プログラムを実施し、みなさまとの

社会活動に対する基本姿勢

ワタミグループは「地球上で一番たくさんの「ありがとう」を集めるグループになろう」をスローガンに掲げ、「企業市民」として「企業活動」と「市民活動」の両立・共存を目指して活動を行っています。

わたみ北海道自然学校

1999年より毎年8月に小学校高学年生を対象とした「わたみ北海道自然学校」を開催しています。これは、子どもたちの持つ「思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝の心、素直さ」など、「人間が本来持っている美しい資質」を高める「きっかけ」を提供できたら、との思いから始めたイベントです。

2002年は、8月20日から23日までの4日間開催し、社長以下、10名の社員がボランティアとして参加、45名の参加生徒とともに、北海道帯広市を訪問しました。大自然の中で、熱気球体験や乗馬、農作物の収穫など、都会では味わうことのできない体験の場を提供することができました。



ボランティア

お食事会

1999年の7月と9月に横浜訓盲院、横浜援護授産所の方々をお迎えしてお食事会を開催。以降、心身に何らかの障害を持ち社会参加の少ない方を店舗に招待し、「お食事会を通じた交流会」を店舗社員が中心となり開催しています。

2002年度のお食事会は全店舗で32回を数え、参加社員は736名。あたたかな思い出を提供する一方で私たちがサービスの原点であるホスピタリティーを学び、一人ひとりが人にやさしい心を持てるような機会をいただいています。

ボランティア研修

1997年4月に、横浜ボランティア協会との協力で施設でのボランティア活動を行うプログラムを導入。以降、毎年4月にこのプログラムを継続的に行なっており、2002年度は174名が参加しました。（先の「お食事会」はこの研修による施設の方々との交流により、新卒社員の提案で始まったものです。）

ふれあいカード

1996年11月より「未来の子どもたちのため」をテーマに、「ワタミふれあいカード」を発行しています。このカードは、ワタミグループ全店でご利用時に特典を受けられるクレジットカードで、年間のご利用総額の1%を社会貢献団体に寄付しています。

お食事会

	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度
実施回数	2	16	22	32
参加社員人数	45	283	319	556
招待人数	107	486	491	1131

ボランティア研修

	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度
参加社員人数	41	60	153	174
訪問施設数	21	18	22	40

1%クラブ

1997年8月より、経団連の1%クラブ（経常利益の1%相当額を自主的に社会貢献活動に支出しようと努める企業や個人の連合会）に加入し、数値目標をもってプログラムを推進しています。1%クラブのホームページ <http://www.keidanren.or.jp/1p-club>

特定非営利活動法人「スクール・エイド・ジャパン」の支援「自分たちの手で行う社会貢献」をテーマに、ワタミグループ各社と全社員が支援する特定非営利活動法人「スクール・エイド・ジャパン(SAJ)」を2001年3月に設立しました。

SAJの活動費は、ワタミグループの社員、並びにアルバイトによる寄付・ワタミグループ店舗内募金箱・ワタミふれあいカード寄付活動が中心となっています。

P23・24に詳しく載っておりますのでご覧ください。

ふれあいの場を増やしています。

「和み亭」のおもちゃ

ワタミグループでは、ハンディキャップを持った方々の社会参加を後押しさせていただくことも重要だと考えています。その一例が1999年6月より「和み亭」で販売している「授産品」で、「和み亭」27店舗の店内に設置したショーケースに展示して販路を広げるお手伝いをしています。

これらの製品は、店舗近隣の地域作業所等で働く方々がボランティアの方々と共に心を込めて作られています。

チャリティーオークション開催

2002年の8月にT.G.I. Friday's® 銀座店で行われたパーテナーチャンピオンシップにおいて、開催したチャリティーバザーの売上、全額の31千円を寄付しました。

講演・出版物

ワタミフードサービス(株)の社長 渡邊美樹の講演を2002年度は18回行い、その講演料約750万円および渡邊美樹著作の出版物の印税すべては、SAJに寄付されました。

地域活動

バザーへの参加

1995年5月に「あさひの家」「港南あかね作業所」のバザーに屋台を出して参加したことからワタミグループの社会貢献活動が本格的に始まりました。これらの施設バザーには、本部社員を中心に継続的に参加しています。グループ企業でもそれぞれの形で地域交流の一環として地域のバザーやイベントに積極的に参加し、その売上は主催の施設や「スクール・エイド・ジャパン」へ寄付を行っています。



「JRM」バザー



ワタミバザー



「和み亭」おもちゃの代行販売

	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度
実施店舗数	2	12	18	26
売上金(千円)	未集計	497	988	1,251



和み亭おもちゃ什器

イベントへの参加

2002年の7月に座間米軍キャンプに模擬店を出店し、その収益400千円を全額「スクール・エイド・ジャパン」へ寄付をしました。

災害復旧への参加

2002年10月、ワタミファームでは自社農場のある千葉県山武町にて、台風による被害の復旧作業(倒木の除去作業など)に参加しました。

100万人のキャンドルナイト参加

夏至の夜に照明を消し省エネ等を考えようと、毎年行われている環境省後援のイベントに賛同し、2003年6月22日の20時から22時まで本社ビルの看板を消灯させていただきました。



未来の子どもたちのために

「自分たちの手で行う社会貢献」をテーマにNPO法人「スクール・エイド・ジャパン」を設立・支援しています。主な活動

スクール・エイド・ジャパンについて

「自分たちの手で行う社会貢献」をテーマに、開発途上国への支援を願う社員の想いを形に変えて、2001年3月に神奈川県知事より認証(3月5日法人登記申請)を受け、ワタミグループ各社と社員全員が支援する特定非営利活動法人(NPO法人)「スクール・エイド・ジャパン」を設立、活動を開始しました。

活動目的

「スクール・エイド・ジャパン」は、「一人でも多くの子どもたちに、人間性向上のための教育環境と教育機会を提供する」ことを目的としており、「子どもにかかわる教育支援プロジェクト」に積極的に取り組んでいます。その具体的な活動として、カンボジア学校建設プロジェクトを行っています。

教育支援3つの方針

「スクール・エイド・ジャパン」は、教育支援を行う上で3つの方針をもとに行っています。

学校教育を充実させる

開発途上国においては、学校教育は子どもの基礎学力の向上を組織的、効率的に行うために特に重要な役割を果たします。より多くの子どもたちが教育を受けられるよう、小学校教育を中心とした支援活動を行います。

地域に根ざした支援

支援対象地域の状況に合わせた教育支援活動を行います。

点から面への支援

一地域からその周辺より広い地域への教育の浸透が図られることを目指します。



ブリエル小学校



NPOとは、Non Profit Organizationの頭文字で、民間非営利組織のことです。非営利組織といいますが、企業のように営利事業を行います。異なるのは企業のように出資者に利益を分配したりせず、得られた利益は活動目的にさらに使ってゆくことが義務づけられています。



スラックエル小学校



トモケオ小学校トイレ



トモケオ小学校井戸



ブリエル小学校贈呈式



ブリエル小学校贈呈式



として海外の子どもたちに教育環境と教育機会を提供しています。

支援実績・計画 (2003年8月現在)

2002年度は、カンボジアに合計4校の校舎建設(計\$108,313=日本円で約1,662万円)、文具や教材・教具などの支援(計\$3,045=日本円で約38万円)を行いました。今後の数年間はカンボジアを中心に活動を行っていきますが、カンボジア

国内においても、より支援を必要とする地域へと、支援の手を広げていきたいと考えています。そして、将来的には、ラオスやモンゴルなどの他のアジアの発展途上国の支援も進め、教育環境と教育機会の提供をしていきます。

支援実績

着工年月	竣工年月	国・地域	学校名	規模	その他支援
2001年11月	2002年2月	カンボジア・コンボンチュナン州	トモケオ小学校(第1校舎)	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2002年3月	2002年6月	カンボジア・コンボンチュナン州	トモケオ小学校(第2校舎)	5教室・9m×40m	黒板・机・椅子
2002年3月	2002年6月	カンボジア・コンボンチュナン州	スラッカエル小学校	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2002年10月	2003年2月	カンボジア・コンボンチュナン州	プリエル小学校	5教室・9m×24m	黒板・机・椅子
2002年2月	2003年6月	カンボジア・コンボンチュナン州	スラッカバス小学校	3教室・9m×24m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2003年4月	2003年8月	カンボジア・コンボンチュナン州	クランサマー小学校	5教室・9m×40m	トイレ棟・黒板・机・椅子
2003年4月	2003年8月	カンボジア・コンボンチュナン州	ロリヤニック小学校	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2003年4月	2003年8月	カンボジア・ブレイヴェン州	ポーアングウッド小学校	5教室・9m×40m	黒板・机・椅子

支援計画

着工予定年月	竣工予定年月	国・地域	学校名	規模	その他支援
2003年11月	2004年3月	カンボジア・コンボンチュナン州	トアップスローウ小学校	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2003年11月	2004年3月	カンボジア・コンボンチュナン州	クランスキーヤ小学校	5教室・9m×40m	トイレ棟・黒板・机・椅子
2003年11月	2004年3月	カンボジア・コンボンチュナン州	チョンロディアイ小学校	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2003年11月	2004年3月	カンボジア・コンボンチュナン州	チョンボプラサート小学校	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2003年11月	2004年3月	カンボジア・ブレイヴェン州	スワイサン・リップ小学校	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2003年11月	2004年3月	カンボジア・コンボンチュナン州	キエンタマー小学校	3教室・9m×24m	黒板・机・椅子 1
2003年11月	2004年3月	カンボジア・クラチエ州	未定(2003年9月決定予定)	未定	未定

1:日本NGO支援無償資金協力を申請予定

300店舗キャンペーンで

2002年9月20日から10月20日に行われたワタミグループ300店舗達成キャンペーンの景品の1つとして、「あなたの名前でカンボジアに寄付」という企画を行いました。この企画は、「スクール・エイド・ジャパン」を通し、当選者のお名前を入れた机・椅子のセットを当選者に代わりワタミグループが費用を負担し寄付をするというものです。

抽選で選ばれた100名の方のお名前を入れた机・椅子は2003年6月および8月に竣工したスラッカバス小学校に48セット、クランサマー小学校に39セット、ロリヤニック小学校に13セットの寄付を行いました。また、当選者の方々には、寄贈証明書とそれぞれのお名前が入った写真を送付させていただきました。



スラッカバス小学校



スクール・エイド・ジャパンへのご支援方法

スクール・エイド・ジャパンの活動は、継続して支援していただく会員の皆様のご協力によって成り立っています。

年間の支援会費額により2つの支援があります。

1口:年額12,000円 1口:年額6,000円

指定寄付

学校建設(1口10万円)

カンボジアでの学校建設を支援する制度です。

約360~460万円で、1棟(5教室)トイレ4つ・井戸1つが目安です。

一般寄付(金額自由)

金額の規定はありませんのでお気持ちでご協力ください。寄付は、個人で、グループで協力して...など、さまざまな形でご支援いただけます。皆様のご支援・ご協力を心よりお待ちしております。

【会費・寄付金のお振込みは】

郵便局:00220-8-64660

三井住友銀行:東神奈川支店(普)6572234

口座名:特定非営利活動法人スクール・エイド・ジャパン

特定非営利活動法人スクール・エイド・ジャパン

本部 〒144-0043 東京都大田区羽田1丁目1番地3号

TEL:03-5737-2773 FAX:03-5737-2719

Eメール:schoollaid@saj.or.jp ホームページ <http://www.saj.or.jp>

ワタミグループ店内では払込用紙をレジに用意してあります。レジ係にお申し付けください。

さまざまな眼で活動をチェックしています。

コンプライアンス状況や環境活動の確認、さらには衛生検査など、さまざまなチェック体制でリスク管理をしています。

環境法規制の遵守

2002年度は、大きな目標として新店の適合性チェックに取組み、100%の実施率を確保しました。

ワタミグループにおける環境法規制は「騒音・振動規制法」、「悪臭防止法」、「廃棄物の処理および清掃に関する法律」などがありますが、これらの法規制に対して店舗では、チェック項目を設けて継続確認して法律の遵守を維持しています。

しかしながら、2002年度は騒音に対するクレーム2件、悪臭に対するクレームが3件発生しています。今後もチェック機能を強化して、法規制の遵守を続けていきます。

内部監査

店舗監査

店舗の環境活動の進捗確認は、ワタミグループの業務監査と同じタイミングで実施しています。そのなかで、監査員は主に環境活動の進捗を含めた従業員への浸透度、法規制の遵守状況などをチェックし、毎週火曜日に開催されている「業務改革会議」にて、統括責任者、営業部宛に是正処置要求を含めた結果報告をしています。

本部監査

本社の各部署における環境活動の進捗確認は、毎年2回本社にて実施しています。この監査の結果は、店舗監査同様に統括責任者に報告され、最終的には是正予防処置の最終確認まで行って継続的な改善に努めています。

SIPの実施 (SIP:スタンダード・インポート・パトロールの略)

店舗監査のフォローアップの一環として、監査担当の社員以外の本部社員による店舗監査(SIP)を各店ごとに年3回行っています。このSIPは、通常の監査の様な抜き打ちでの実施ではなく監査実施日程および監査項目(100項目)を事前告知し監査を行うことで清掃や書類管理などを、一定の周期であるべき姿(スタンダード)を確認することを大きな目的としています。

また、日ごろ店舗運営から離れている、本部社員が店舗に入店することにより、現場での要望を吸い上げたり、店舗と本部の間での問題点の共有ということも同時に実現している制度です。2002年度には全店でのべ821回実施されました。

衛生検査

店舗の衛生検査は年2回、微生物検査、見聞調査等、49項目について衛生チェックが抜き打ちで実施され、改善すべき点がある場合、各店舗では対処を早急に実施します。またその結果は店舗監査結果同様に、週1回実施される業務改革会議にて報告されます。再検査の実施等により改善状況の確認を徹底しています。2002年度は、全店で合計573回の検査が行われました。



EMS委員会リサイクルセンター視察



店舗監査



店舗衛生検査



店舗衛生検査

ISO9001の取組み

2002年10月にISO9001品質マネジメントシステムの認証を、本社および「和民」（255店舗）・「和み亭」（29店舗）の全店舗で同時に取得しました。

月間のお客様満足度80%クレーム0件を目標とし、サービスの品質の維持、向上に取り組んでいます。

ISO14001環境マネジメントシステムに加え、これら2つのマネジメントシステムの併用により、店舗における環境活動を含めたサービスの品質を追求し続けています。



品質方針

- 1、商品が美味しいこと
- 2、商品がタイミングよく提供されること
- 3、商品が均一化されていること
- 4、メンバーが親切なこと
- 5、メンバーに笑顔があふれていること
- 6、メンバーに活気があること
- 7、メンバーが礼儀正しいこと
- 8、店舗は清潔であること
- 9、明朗会計であること
- 10、QSCのバランスにおいて

価格が安いこと

品質目標

「80%・0件」

ワタミヘルプライン開設



開設主旨

ワタミグループは、グループ内に存在する問題を広く受け、積極的に問題を解決し、自己改善、自己自浄のできる「いいグループ」となることを目指します。システムとして企業社会責任に対応するため「メールによる情報収集窓口」を社内外に開設しました。

受付体制の説明

ワタミグループ企業の
法令・契約違反
不当な要求や地位の濫用
店舗で使用する食材の品質にかかわること
など、私たちが社会の信頼を失う可能性のある内容について、Eメールによる情報提供をお願いします。
お願い：情報のご提供は「実名」が原則となっております。
(通報者守秘義務の約束の項をご覧ください。)

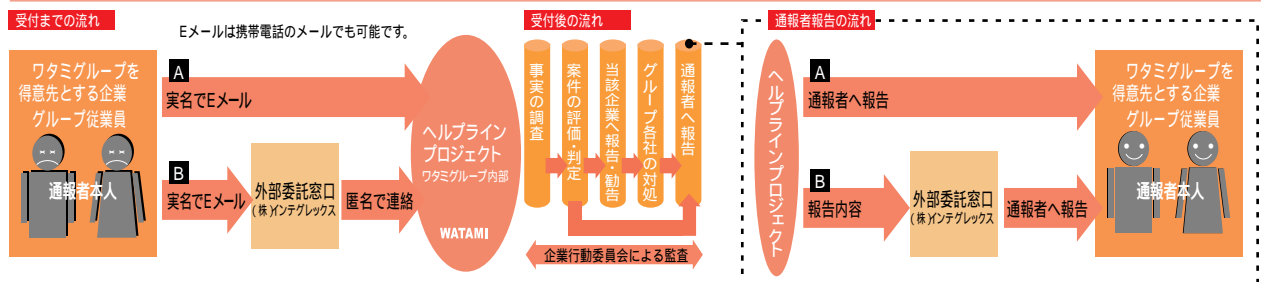
通報者守秘義務の約束

ワタミ社内の「ヘルプラインプロジェクト」とインテグレックス社の「ヘルプライン」は、通報者の秘密を守ります。

報復禁止の約束

通報者がヘルプラインに情報を提供することでワタミグループから報復を受けることはありません。

WATAMIヘルプライン



受付窓口

Eメールの受付窓口は「ワタミグループ内窓口」と「外部に委託した窓口」の2つあります。グループ内窓口は社内独立組織の「ヘルプラインプロジェクト」がメールを受け付け、対応します。w-helpline@watami.net
外部委託の窓口は(株)インテグレックスに設置されており、通報者の所属や氏名などを伏せてワタミグループ内の「ヘルプラインプロジェクト」に情報が提供されます。w-helpline@integrex.jp
法令上の義務を負う場合を除き、本人の了解なく氏名などがワタミ側に情報提供されることはありません。インテグレックス社は「企業の社会責任を支援する会社」で、連絡者とワタミグループの間に入り中立性を維持します。インテグレックスホームページ <http://www.integrex.jp/>

ヘルプライン受付アドレス

- A ワタミヘルプラインプロジェクト
w-helpline@watami.net
 - B (株)インテグレックス(外部委託会社)
w-helpline@integrex.jp
- Eメールは携帯電話のメールでも可能です。

もし思い当たることがあれば左記の窓口へEメールにてご連絡ください。